

5学年 体育科学習指導案（ティーボール）

日時：令和6年10月2日（水）第5校時

小学校 5年生 27名

1 単元名 ティーボール

2 単元設定の理由

（1）教材観

ティーボールは、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをし、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合う楽しさや喜びを味わうことができる「ベースボール型」の運動である。攻撃側は、打撃や走塁によって攻め、守備側は、捕球や送球によって攻撃側の走塁を阻止し、ゲームを展開していく。「打つ」「投げる」「捕る」などの基本的なボール操作技能に加え、ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりしながらゲームを展開したりしていくことが求められる運動である。

（2）児童観

本学級の児童は、体を動かすことが好きであり、休み時間には多くの児童が運動場で鬼ごっこやサッカーを行っている。事前に行ったアンケートでは、体育の授業は「好き」と答えた児童が80%、「少し好き」と答えた児童は20%となっており、全員が体育に対して、肯定的なイメージをもっている。しかし、野球やティーボールの経験がない児童が32%、野球を楽しくないと思っている児童の割合は28%であった。「野球についてどう思うか」の項目では、「打つ感覚が分からぬ」「バットにボールが当たらぬ」「構え方をどうしたらいいのか」「投げ方が分からぬ」「キャッチするのが苦手」「ルールが分からぬので試合にならぬ」など、「打つ」「投げる」「捕る」などのボール操作やルールの複雑さから苦手意識を抱いているように見受けられた。また、三年生では三角ハンドベースボールを学習しており、ベースボール型ゲームの楽しさに触れてはいるが、ボール操作の技能が十分身に付いているとは言えず、ゲームが成立しなかったり、勝敗によってチームでもめることもあったりしたようである。

（3）指導観

これらの実態を踏まえ、一人一人がボールを打つ攻撃や、捕球したり送球したりする守備などのボール操作の基本的な技能を身に付けるとともに、互いに良さや改善点など、課題解決のために考えたこと伝え合いながら運動の楽しさに触れさせたい。初めに、使用するボールを、転がりすぎず、当たっても痛くない扱いやすいゴムボールで学習をスタートさせる。そして、単元中盤までに主運動につながる運動を設け、ゲームに参加しやすくなるようにする。また、仲間と力を合わせてゲームを行う楽しさや喜びを味わうことができるよう、試合前後に相手や味方同士で挨拶や握手をさせたり、相手や味方のよいプレイを賞賛することを価値付けたりする。自己やチームの課題を見つけ、チームで話し合い学びを深めていきたい。本時では、打撃練習で、みんながボールを打つことができるようになる。また、ゲームでは、チームで選んだ出塁するための方法について、声かけするように促したい。ゲームを通して、友達と協力したりアドバイスをしたりしながら活動することで、本時以降の意欲へとつなげていきたい。全ての児童がティーボールの楽しさや喜びを味わいながら三つの柱をバランス良く育成したいと思い、本単元を設定した。

3 単元の目標

- ティーボールの行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と、隊形をとった守備によって簡易化されたゲームをすることができるようとする。【知識及び技能】
- ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようとする。【思考力、判断力、表現力等】
- ティーボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考え方や取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようとする。【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">① ティーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。② 静止したボールを打つことができる。③ 捕球したり送球したりする守備などのボール操作ができる。④ チームとして、ボールを持たないときの動きによって簡易化されたゲームをすることができる。	<ul style="list-style-type: none">① ルールを工夫している。② 自己やチームの特徴に応じた簡単な作戦を選んでいる。③ 課題解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	<ul style="list-style-type: none">① ティーボールに積極的に取り組もうとしている。② ルールを守り仲間と助け合って運動しようとしている。③ 勝敗を受け入れようとしている。④ 仲間の考え方や取組を認めようとしている。⑤ 誰とでも仲よくゲームをしている。⑥ 場や用具の安全に気を配っている。

5 指導と評価の計画

	1	2・3（本時）	4・5・6	7・8
学習活動	オリエンテーション 1挨拶 2単元の見通しをもつ ・ゲームの行い方の説明 ・学習のルール 3場・用具の準備をする ・用具の扱いについて 4準備運動、主運動につながる運動をする ・試しのゲーム 5本時の振り返り・次時への見通しをもつ 6片付け 7挨拶	1場や用具の準備をする 2挨拶をする 3準備運動をする	4本時のめあてを確認する	
	5ゲームにつながる運動をする (打撃) ・体操 ・打撃練習①(当てる) ・打撃練習②(ねらう) 6ゲームをする	5ゲームにつながる運動をする（守備-走塁） ・体操 ・守備練習①(投げる) ・守備練習②(捕る) ・走塁練習(走る) 6ゲームをする	5【○○カップ】 ・バッティング ・守備 ・ルールや作戦を工夫してゲームを行う。	
	7本時を振り返り、次時への見通しをもつ 8片付け、挨拶をする	7本時を振り返り、次時への見通しをもつ 8片付け、挨拶をする	6単元の振り返りをする 7片付け、挨拶をする	
	知識・技能 ①ワ	②観	③観	④観
	思考・判断・表現	①観・ワ	③観・ワ	②観・ワ
	主体的に学習に取り組む態度 観・ワ	②観・ワ	⑤観・ワ	④観・ワ
			③観・ワ	①観・ワ

※観は観察、ワはワークシート

6 本時の学習（3/8）

- (1) 目標
 ・静止したボールを打つことができる。
 ・得点（出塁）するための方法について、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
導入 (8分)	1 準備運動をする。	1 腕や肩周りを中心に準備運動を行うことができるようとする。		
	2 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	2 児童の発言やICTを活用することで、本時の課題をつかめるようにする。		

		ボールを打って、出塁するための方法を考えよう。		
		・動画を見て、点をとるための方法を考えさせる。		
展開 (32分)	3 めあてを意識し 打撃練習②を行う。 4 ゲームをする。	3 チームで協力して、打撃練習②を行なうことができるようにする。 ・的を意識して、打撃練習をするように伝える。 ・アドバイスや賞賛をしながら全体を回る。 4 点をとるための方法を考えながら打つように支援する。 ・ゲームの前に作戦タイムをとり、点をとる方法をチームで話し合う時間をとる。 ・よいボール操作や話し合いができる児童や班を賞賛したりポイントを伝えたりする。	・点をとるための方法について、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられることができる。 <思・判・表③> ・静止したボールを打つことができる。 <知・技②>	観察・まなボード 観察
まとめ (5分)	5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	5 自分やチームの変容や気付きを発表し合う。 ・学習の成果を確認するとともに、次時の学習への意欲を高めることができるようとする。		

(3) 本時の評価規準

【知識・技能】

「十分満足できる」と判断される状況	力をボールに伝えながら、ボールをねらったところに打つことができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	力の入れ方や、腕の使い方、目線の付け方を意識させるよう声かけをし、ボールを打てるようとする。

【思考・判断・表現】

「十分満足できる」と判断される状況	出塁するために、相手がいないところや一塁ベースより遠いところをねらってボールを打つように他者に伝えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	チームで選んだ作戦を、ゲーム中に意識させ、打者に伝えるよう声をかける。

(4) 準備物

ボール、バット、ティー台、コーン、タブレット、プロジェクター、スクリーン、まなボード、ホワイトボードマーカー、振り返りシート